

# 小学校 音楽科

## 1 改訂の趣旨及び要点

### 目標の改善

太字は、新学習指導要領で改訂、追加された文言。

表現及び鑑賞の活動を通して、**音楽的な見方・考え方**※①を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す。

知識・技能の習得

**曲想と音楽の構造などの関わりについて理解する**※②とともに、**表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。**

思考力・判断力・表現力等の育成

**音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。**

学びに向かう力・人間性等の涵養

**音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。**

※① 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化と関連付けること。

※② 音楽を曲想（雰囲気、味わい）や、構造との関わりについて、低・中学年では「気付く」ようにする。高学年では「理解する」ようにする。

低学年「 <b>気付く</b> 」	➔	高学年「 <b>理解する</b> 」
【例】この曲の前半は弾んでいたけれど、後半はゆったりした感じに変わったよ。		【例】前半が弾んでいたのは、旋律の前半には、 <u>細かなリズム</u> や <u>タカのリズム</u> が多かったから。それが、後半には、 <u>長い音符</u> が多く使われるようになって、ゆったりしたのかな。

音楽活動を伴わない個別の知識の習得にならないよう、指導の工夫を行うことが大切。

### 内容構成の改善

領域、共通事項	現行学習指導要領	新学習指導要領
領域 「A 表現」 「歌唱」「器楽」「創作」 「B 鑑賞」 〔共通事項〕	それぞれの領域、共通事項において、指導する内容を資質・能力の順序関係なく示す。	ア「思考、判断、表現力等」 イ「知識」 ウ「技能」 ア「思考、判断、表現力等」 イ「知識」 ア「思考、判断、表現力等」 イ「知識」

構成は現行と変わらない。

学習内容との関係について、それぞれの領域、及び共通事項の中で育成をめざす、「思考、判断、表現力等」「知識」「技能」の三つの柱で整理。

※ ア、イ、ウの順番は重要度と関係ない。三つの資質・能力が**一体的**に育成されることをめざしている。

### 改善のポイント

例えば、「A 表現」「歌唱」指導において、児童に思いや意図をもった歌唱表現をさせるために、新たな知識や技能を習得したり、これまでに習得した知識や技能を活用したりして試行錯誤しながら、「このように表現したい」という考えをもたせる。

☆ **言語活動の充実**（現行学習指導要領では「B 鑑賞」のみに位置づけられていた言語活動を「A 表現」でも扱うよう改善・充実）  
音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや「想像したことなどを伝え合い共感するなど、**音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるよう指導を工夫すること**」を新たに記載。

☆ **我が国や郷土の音楽に関する学習の充実**  
「**和楽器**」が、**中学年**の旋律楽器の例示に追加。（現行学習指導要領では、高学年のみで例示）  
「**愛着**をもてるよう」にすること、また、「そのよさを表現したり鑑賞したりできるよう、**曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方など指導方法について工夫すること**」を新たに記載。

## 2 小学校音楽科における授業づくりのポイント

### 音楽科の特質に応じた言語活動の充実を図る

音楽の表現や鑑賞を行った後、意見や感想を交流・共有した上で、その内容について、再び音楽活動を行い確かめてみるなど、**音楽活動と言語活動を行き来しながら、学習の充実を図る。**

#### (表現)

- ①個々の児童が抱えている思いや意図を共有するために、言葉によるコミュニケーションを行う。
- ②言葉で共有した思いなどを今度は実際に音に出して確かめたり言葉で表した表現に近づくための試行錯誤をしたりする。

#### 【児童】

「ここは、音がだんだん高くなっていくフレーズだから、歌う時もだんだん高くていけばいいんじゃないかな。」  
 「この曲には8分音符がよく使われている。だから弾んだ感じにしたらいと思う。」

**実際に歌って確かめてみましょう。**

#### (鑑賞)

- ①鑑賞した音楽について、児童の様々な感じ方を言語活動で共有する。
- ②再度音楽を聴き、さらに自分の感じ方を確かめる。

#### 【児童】

「この歌を聴いてみて、力強さを感じたよ。」  
 「友達同士が言い争っているようで、怖い感じがする。」  
 「私は、悲しいと感じたけれど、そういう感じ方もあるんだな。」

**もう一度聴き直してどんな感じがするか。確かめてみよう。**

### 音楽科における主体的・対話的で深い学びの実現 A 表現「歌唱」

**音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生みだしたり、音楽を聴いてそのよさを見出し**たりするなど、**思考、判断し、表現する一連の過程**を大切に学習の充実を図ること。

《本授業でのめあて》

「広い空の下で」を歌い、歌詞の内容や曲の雰囲気を生かした歌い方を工夫しよう。

#### 主体的な学びの視点 (例)

音や音楽と出会う場面において、音楽的な特徴に気づき、表したい音楽表現のよさなどを見いだす**見通しをもつ**。

#### 対話的な学びの視点 (例)

音楽的な特徴について共有し、感じ取ったことに共感しながら、**自分なりの感じ方をもつ、また自分の考えをもつ**。

#### 深い学びの視点 (例)

「音楽的な見方・考え方」を働かせ、他者と試行錯誤を重ねながら活動をすすめ、よりよく課題解決する。

- 歌詞の内容や曲の雰囲気を生かした歌い方を工夫する見通しがもてるよう、曲をCDで聴きましょう。

- ・考えやすいように曲の前半と後半に分けて考える。  
 歌詞の内容を頭の中にイメージし、そのイメージにあった歌い方を考える  
 音色や音程、音質の違いに注意する
- ・繰り返し鑑賞しながら、イメージを具体化する。 等

- この曲を聴いてどんな感じがしましたか。話し合ってみましょう。  
 前半は、なめらかに聴こえた。ゆったりとしていた。柔らかい感じがした。  
 前半の最後の部分から後半に向かってだんだんと力強くなっていく感じがした。  
 後半の楽譜には8分音符がよく使われているから、力強く聴こえたのかな。

対話的な学びを進めるために、  
 ・**鑑賞のポイントを明確に示し、繰り返し鑑賞させる**  
 ・途中で別のグループの意見を聞く機会を設定する  
 等といった工夫を行う。

- 上のパートと下のパートに分かれ、歌い、聴き合ひましょう。その後、上(下)のパートの人は、歌の感想を下(上)のパートの人に聞いてみましょう。  
 (下のパートを歌った児童) 下のパートをだんだん強く歌ったけれどどうかな?  
 (上のパートを歌った児童) だんだんと強く歌ったところが良かった。  
 (下のパートを歌った児童) 上のパートもだんだんと強く歌ってみたらどうかな?